

☆☆☆☆☆☆ 創立5周年を顧みて ☆☆☆☆☆☆

委員長 村上 和夫

今年は、創立5周年の年ということで、役員一同、年初めより一段と気を張って過ごしてまいりましたが、記念大会、記念パーティとも盛大に行うことが出来、ほっとした気持ちで年の瀬を迎えております。世話役の実行委員の方々、まことにご苦勞様でした。参加して下さいました会員の皆様、ありがとうございました。この他、11月の対いわきVTCとの親善試合も大変な盛況で、当連盟の底力が発揮されたような思いがしました。なお、会員数も引き続き順調に増加し、創立5周年というおめでたい年において、待望の300人を越すに至りました。

当連盟は、テニスを一つの生きがいとしている人達の集まりでもあるとっていいと思いますが、楽しみを同じくする仲間は、大勢いた方がそれだけ楽しみも大きくなると思います。そういう意味で、この300という人数は何とも頼もしい限りです。

私達に豊かなテニス・ライフを提供してくれる当連盟は、私達の共通の財産であり宝でもあります。9月にプレねりんピックの仙台チームの一員として盛岡に行ってまいりましたが、そこで、近年、東北各県において、当連盟と似たような組織があいついで創られつつあることを知り、一層このような思いを強くした次第です。

目次

	頁
◆創立5周年を顧みて	委員長 村上 和夫・1
◆連盟発足の頃	上山 弘・2
◆テニスむかしばなし	吉沢 幸雄・6
◆創立5周年記念大会を顧みて	瀬野尾 秩・7
◆創立5周年記念パーティ開催	菅野 善治・8
◆記念行事会計報告	伊藤 一利・8
◆宮城県壮年テニス連盟年齢構成	事務局・9
◆ねりんピックびわこ大会 および 岩手プレ大会に参加して	今野 ミチ・9
◆新入会員の自己紹介	白根 早苗・10
◆シリーズ「より楽しいテニスを」No.6	高橋 龍夫・11
◆対女子連定期戦 辛くも神吉杯奪還なる	・12
◆対いわきVTC親善試合成功裡に終わる	・12
◆平成2年度連盟事業報告	・13
◆新入・退会員紹介	・14
◆平成2年度各種大会成績	・15
◆平成2年度後期委員総会報告	・16
◆お知らせ「室内ダブルスを楽しむ会」開催通知	・16

☆☆☆ 連盟発足の頃 ☆☆☆

元副委員長 上山 弘

5周年記念号を特集するので連盟創設当時の経緯などをと原稿を依頼されましたが、果たして私がそのような記事を担当するのが適任であるかどうか少なからず迷うところです。確かに私共は何人かのテニス仲間と語り合い、壮年ないし老壮年のテニス愛好者が何時でもテニスを楽しめるような組織を作りたいと同好の士に呼び掛けました。やや安直な企画であったにも拘らず、100名を越える方々のご賛同とご協力のもとに連盟は発足することができました。その後も、テニスを通じてのお互いの認識が基盤になって連盟の運営は支えられてきました。しかし、私の正直な感じとしては、むしろこれから連盟創設時代の最も重要な段階を迎えるのではないかと思うのです。

もちろん、たる程度の幅は念頭に入れながらも、同好会的性格を前面に出して出発した連盟でしたが、その後も予想をはるかに越えて会員が増加をしてい

ることは非常に喜ばしいことですが、一方、連盟の雰囲気や運営面において色々な影響が現われてくることも当然の成り行きかと思われまゝ。コート確保などは勿論のこと、多くの会員の意向を公平にできるだけ沢山採り入れて運営に当たるためには色々な工夫が要求されることでしょう。従って、今までのように同好の士が集まって楽しくテニスの技を競い、交流親睦の輪を拓けると言っても、言葉の上だけでなく本当にそう出来るかどうかは、これから数年にかかっているように思います。人数が増えれば、同じ日の競技会に参加しても各々が離れたコートでプレーすることになり、結果としてはお互いのお顔や名前も覚えられないまま、他意はなくとも挨拶も交わせないで過ごしてしまうことが多くなるのは自然の成り行きかも知れません。この物理学の原理に反してどうやって交流親睦を計たらよいか、簡単な名案はなさそうです。また今一つの問題は、同好会的組織であってもこの位の規模になり、且つ、テニスコートという公共の施設が不可欠である以上、壮年テニス連盟も何らかの形の公的な認知が必要な段階に近づいたのではないのでしょうか。公的スポーツ団体となっても同好会性という性格をどこまで盛り込むことが出来るのか、また、同好会性だけでよいのか、少なからず気になるところです。この同好会性は壮年テニス連盟の発展をここまで導いた大きな要素でありますので、今後連盟がどのような形に発展していても、この要素は可能な限り大切に残しておいてほしいと私は願っております。しかし一方では、これからは大きくなった連盟の社会的責任ということも念頭において、創設時代の仕上げをしなければならぬ大切な時代だとも思っております。こういう意味で、ほんの創設時代の事始めとも言える連盟発足前後の経緯や、今だからこそ公表できるエピソード等を私なりの独断と偏見を混えながらご披露し、また私自身多くの方々に迷惑を掛たり、無茶なことをしたり、もっと前に罪滅ぼしをしなければならなかったことなども、一部分だけ白状して少しでも気持ちを楽にさせてほしいと思っております。会報担当の委員の意図から、多分大きく脱線するであろうことを初めにお詫びいたします。

なお、正式な経過報告は、会報1号に、「連盟結成にいたる経緯」なる拙文を載せていただきました

が、その前半の部分に連盟結成の趣旨を述べております。要約すれば、「テニス好きにも色々なテニス観の人がいますが、たまには一緒にテニスを楽しめるよう、交流、友好、連絡のための壮年の会を作りましょう」、ということでした。その後半には事務的な経過が記してあります。従って、以下の記事は適当に拾い読みして頂ければ幸いです。

与運 テニスは素人の私も壮年の年齢に達した頃には、市民大会で優勝または準優勝したことも何度かあります。しかし、当時の正規の公式戦の世界では、その何年か前からずっと後まで、北日本断つ、全国屈指の自他共に認める名人選手が君臨していて、私なんか出て不幸にも名人に当たったりしたら、胸を借りるところか鎧袖一触、1ポイントも取れずにひねり潰されるのが定めでした。一度だけこの名人が何らかの都合で欠場されたときには決勝まで進み、相手にとっては極めて残念なことだったでしょうが途中で負傷棄権された結果、負けていた私どもの方に優勝が弾がかり込んだことがありました。これが最高の栄誉で、あとは自慢するような経験はありません。そのうち年とともに体力、技とも衰えは顕著になり、市民大会でも優勝はおろか一回戦もなかなか突破し難くなってきました。壮年の部の市民大会は雰囲気それほど堅苦しくなく、決勝戦が早く終わると、主催者側世話人の機転で、彼らも混じって参加者を遊ばせてくれることが時々ありました。それまでは、公式戦で素人上がりの私(と平井さん)共には負ける筈がないと自信満々の本格派の高橋(恒)さん、村上和夫さん組だけは少し目障りな存在でしたが、こういう機会のおかげで、以来すっかり親しい友達になってしまいました。こうして段々友達も増えてきましたが、皆が共通して望んでいることは、普段、自分の所属クラブで遊ぶだけでなく、たまにはこういう非公式の他流試合も楽しめるような同好の集まりを持ちたいということでした。正式の試合に出て、負けてはこんなことを語り合っているうちに何年か過ぎてしまいました。

きつかけ 昭和60年に私は定年退職し、これからは自分の好きな時にテニスが出来ると喜んでいました頃、前記のテニス名人先生がテニススクールを開校され、「お前程度の奴を対象に〔指導者養成コー

ス)も作った。暇を持って余しているのはもったいない。指導してやるから来い。」とお電話を頂きました。世界トップレベルのテニス界最新の趨勢から初心者の扱い方に至までの独特の講義の他、ついにものに出来ませんでした。ドロップショットなど、幾つかの名人の秘技の指導も受けました。このコースに2期にわたってお世話になっている間にも、また色々の友人に恵まれました。

さて、このスクールの秋のある日のこと、校長である名人から、近い将来に全日本ベテランテニス協会ができる機運があるので、宮城県にも支部のようなものが必要になるだろうというお話を伺いました。しかし、話を聞いていると、これはかつてのデ杯選手や全日本ランキング選手が年をとっても同年輩のプレーヤーと格調の高いテニスを続けようとする組織のようで、我々のような遊び人が望む組織とはかなりの格差のあることも判ってきました。そこで、県テニス協会にも係わっておられるし、また養成コースのコーチにも時々お見えになる高橋(龍)さん、初級高年齢コースコーチの山内さんに私どもの希望する壮年の組織を作りたいのだが、ベテラン協会との関係をどう調整したら良からうかと相談を持ちかけました。彼らは、ベテラン協会の話はまだ煮詰まっていないし、本当はまだどうなるかよく判らない。私共の希望する組織も充分意義があるし、積極的に応援しますよ、と励まして下さったのがきっかけとなり、早速、61年春の発足を目標に下相談が始まりました。

発起人会 私どもが最も気を使ったことは、本格派のテラン協会に先んじて同好会的な組織を作ることについて、テニス名人の先生から、「けしからん! あんな奴らは宮城県ではテニスが出来ないようにしてやる!」と怒鳴られるかも知れないことでした。そこで、発起人会を開くにしても、その世話人には怒鳴られても少し鈍感で且つ実害の少ない人が良からうということで、早朝テニスの青木さん、仙台ホテルの高橋(恒)さん、お医者の中村さん、電力の山本さんに私という連中が盾になり、各々からテニス仲間へ発起人として集まってくれと呼びかけました。これは本格派は一切拒否するという姿勢ではなく、当初は本格派重視の組織ではなく、なるべく多数のテニス好きの連中が気楽に参加出来るような同好会として発足させてほしいという単純な希望

からでした。私も、大先生に、今はこんなレベルのテニス好きの遊びだとして見ていて下さい。そのうち技量も少し上達して本格的にやってみたいという人も増えてくるでしょうから、その暁には是非ご指導をお願いしたいと思っておりますよと、恰好良くご挨拶申し上げました。何故かこの大先生、永年私には好意的で私は何時も大変お世話になり続けておりますが、この時も好意的なご指導、ご助言をいただきました。

昭和61年3月1日(土)、いよいよ発起人会です。会場は片平の東北大学科学計測研究所の中会議室です。大学の会議室を使うことについて、私のテニス仲間の一人で、発起人にもなってくれと頼んだ東北大の先生から、お前は私的なことに公共の施設を使うのはけしからん、と文句をつけられ発起人も断られました。これはショックでした。これに対して、同じ東北大でも科研の矢田所長は、会議室使用を快くお許しになり、発起人会の席で冒頭に、壮年テニス連盟への期待と発起人会歓迎のお言葉をいただきました。世の中には、水を掛けるために理屈を言う人も居れば、多少筋違いでも責任は自分で担って温かい手を差し伸べてくれる人も居るものだと、今だにその時の有難さを思い出しますが、ご迷惑があったのではと心配もしております。

発起人会は神吉先生が議長を務められ、ここで、名称、主な活動方針等が協議され、連盟発足までの具体的準備を整えるための準備委員会が作られました。

名称について 宮城県/壮年/テニス/連盟 という名称は区切り毎に色々な候補語から多数決によって決定されたものです。「宮城県」は圧倒多数、「壮年」は「ベテラン」を27:12で抑えましたが、意外だったのは、次に「硬式」と入れるかどうかでした。僅差(21:19)で入れないことに決まりました。「テニス」は「庭球」に苦戦(23:17)、「連盟」は次点の「協会」に22:7と大きく水を開けました。

女性問題 会員に女性を入れるかどうかということで、意外にも議論が沸騰しました。入れるなし主張する強硬派は、「女性が入ると、とかく細かいことまで感情的でうるさい。纏まる話も纏まらなくなる。」「女子と小人養い難し。君子危うきに近寄るべからず。」といった過激なものから、かなり理

論的で説得力のあるものもあり、なかなか譲歩してくれません。余程、女性問題でご苦労されたのかと、ご同情もしますが、原案提供者としては、女性を加えるか否かで連盟の雰囲気、場合によっては性格まで変わる可能性もありますので、何とか妥協してほしいとこちらも粘ります。議論が立ち往生した所で中間派から、「原則としては認めるけれども、当初は色々不確定要因も多いこと故、連盟の運営が軌道に乗ってから改めてはどうか。」と提案があり、事態を收拾しなければならない立場の議長の勧告もあって、この時は私も仕方なく引き下がりました。議事録には少し恰好をつけて、「原則的に結構であるが、女子部についてどれだけの内容の催しが実行可能か現時点では見通しが難しいので、当面は・・・」と作文しました。

しかし、連盟結成準備委員会のメンバーの一人に加わった私は、女性も最初から同等に参加した連盟と、男性だけでスタートした後で女性加わる場合とでは、連盟の性格も、また後に加わる女性自身の会員意識にも大きな違いがあるのではないかと悩みました。発起人会で一旦決まったことではあるが、何とか再考して貰えないか、と準備委員会をお願いしたところ、ここのメンバーは割と簡単にOKしてくれました。早速、私は発起人の強硬反対派の方に個別に妥協をお願いし、何とか同時出発が実現することになりました。しかし、準備委員会は発起人会の決議に従わないで、違った実行計画を立てたのですから、本来ならば発起人全員のご了承を得なければならないところですが、それは致しませんでした。というのは、発起人会での議論の情報が女性にも伝わり、彼女たちから、「女性を侮辱する発言をし、女性を締め出した張本人は誰か」と、犯人追及の手が厳しく伸びてきたため、発起人の誰もが自分ではないという顔をしたからでした。形式上とはいえ手抜きをして、民主主義の基本ルールに従わなかったことが何時までも一寸気になっておりましたが、もうそろそろ5年になりますので、この辺で時効としてお許し願いたいと思います。

その時の強硬派の方々も、その後は奥様とともに加盟されたり、他の女性会員とも楽しげにミックスダブルスをしておられますので、結果的に何のしこりも残らなかったことに安堵しております。こうし

て5シーズン、男女共存の形で過ごしてきた当連盟歩みを振り返ってみますと、女性の参加は今日の連盟の性格や雰囲気を形成するのに大きな役割を果たしてきたように思います。女性の貢献度については、私は百点満点をつけるつもりはありませんが(ここでムツとされる所など大きな減点の対象になります)今後とも連盟が楽しく健全に育つか否かは女性に大きく懸かっているように思えます。連盟の運営に建設的に参加されたり、スポーツマンシップの昂揚、テニスマナーの涵養、コートの一部グループで独占しないなどの善意の気配り、等々、男性にお手本を示して欲しいと私は切実に願っております。

規約 準備委員会の役目の一つは連盟規約案を用意することでした。委員会では性格の違う二種類の案が検討されました。A案は、現宮城県テニス協会の規程を参考に、壮テ連向きに焼き直したもの、B案は現規程の素案でした。

A案も、同好会的性格を表すための苦心の作でしたが、オリジナルが県協会のものですから、例えば役員も、会長、副会長、常任理事、理事、監事と堅苦しく、かなり中央集権的な組織を感じさせるものでした。会員の心得という条項があり、「本会員は本会が楽しく運営出来るよう理事と協力するものとし、いささかもテニスマナーに反することのないように努めること」と、なかなか厳しいものでした。A、Bともに共通している思想は、役員も交代で担当し、同好会として楽しく運営して行きたいということでした。

B案は、会員の所属クラブや職場ごとに、そのグループ内の意向を反映させるためのグループ代表委員を最も重視し、代表委員と運営委員、幹事とから成る委員総会を最高の決定機関としています。最近、委員総会にグループ代表委員の出席率が悪いと伺っていますが、運営委員会の運営が申し分無いからかも知れません。しかし、会員は要望や不満があれば、代表委員を通じて運営委員会に必要な提言助言をする権限と責任があることでA案とは対称的です。いま一つの特徴は、役員は多くの人が交代で世話役を担当しようとする思想で、運営委員の任期も原則1年、重任する場合も続けて3年が限度と明記し、ボスの発生を防止しています。この他、原案には、「テニス界にたいする功績顕著なるものがあり且つ

品格高潔にして、本会の向上発展に必要な指導助言を得るため欠かせない者を委員総会の議を経て顧問に推挙する」という条項もありましたが、ボスに転化する恐れありという理由で削除されました。

これから会員がもっと増えてきますと、運営担当者と会員との間の意志の疎通が一段と重要になることでしょう。形式的でない実のある全会員の総会を開くことは実際的には難しいので、これに代わって、職場、クラブ等の代表委員の集まりは、発足準備の当時は中々の名案だとおもっておりました。代表委員制度が何故こんなに不評で機能しないのか、連盟としての重要な機能を担うものだけに、私は悩みを禁じ得ません。

誤解 整備も整い、いよいよ連盟結成大会を開く段取りになりましたので、準備委員会は県下の各テニスクラブ、職場等のテニス同好会の代表者宛てに、連盟結成の趣旨を伝え、今後のご支援をお願いするための挨拶状を送りました。その一節「・・・準備作業を進めて参りました結果、来たる4月20日を期して連盟結成大会を開催する運びとなりました。また、連盟結成を記念して、別紙の通り技量別ダブルス大会も企画いたしました。つきましては、貴殿には本連盟の趣旨にご賛同くださり、壮年、老壮テニス愛好者のため何分のご支援をお願いする次第であります。どうぞ貴殿のテニスクラブあるいは職場の方々には宮城県壮年テニス連盟結成のニュースをお伝えくださり、多数の方々がお誘い合わせの上連盟に加盟され、また記念競技会にもご出場されますようご高配をお願い申し上げます。掲示用ピラ、加盟申込書、連盟結成大会プログラムおよび記念親善競技会参加要綱をお送りいたしますので、どうぞ宜しく願い申し上げます。(以下略)」

これで準備委員会としては頭を使う仕事は概ね完了、あとは当日の現場のお世話だけと一安心したところでした。仲間からも、「うちのクラブにもピラが貼ってあったよ。」と、当然の情報が入りました。ところが数日経つと、「何故だかピラが外してあったよ。」と、意外な知らせです。委員会でも原因を検討しましたがよく判りません。まだ謎に包まれております。敢て原因を憶測すると、加盟申込先として、南インターテニスクラブの下山さん(準備委員)と指定したことでなかったかと思うのです。

このため、南インターTCが宮城県壮年テニス連盟に特別な結び付きがあるのではないかと疑われる可能性はあります。とすれば、他のクラブが南インターTCの宣伝の片棒を担ぐわけには行かないでしょう。準備委員会として細心の配慮に欠けていたため、下山さんの人格にも係わるような誤解を招き、大変なご迷惑をかけてしまったことを心から申し訳けなく思っております。

当時、直ちに釈明のための努力対策も検討しましたが、原因も確認出来ず、結局は宮城県壮年テニス連盟が健全に発展し、その実績によって、いかなる誤解の種も無かったことを後日理解願う以外に本質的な釈明は出来ないということで今日に至りました。結果的にこの連盟に加盟されている方の所属クラブ分布にある程度の偏りが残っているように感じます。5年目の今、この謎の深い霧も少し晴れてきたような気もします。最初の一年間は何の道具も持たない宮城県壮年テニス連盟に、競技会を開く度に必要な机や椅子を運んで来て貸して下さるようお願いしたのは私でした。下山さんのご好意を紹介して感謝の意を表するとともに、彼には何の下心も無かったことを鮮明に記しておきたいと思えます。

結び 発足当時、同好会性に重きをおいたことは事実ですが、これを以て満足していたわけではありません。規約にもありますように、友好親睦と同時にテニスの技を磨くことも目標なのです。確かに同好会的な交流機関としての役割を期待する会員の数が最も多いと思いますが、テニスの技をもっと本気で磨きたい、他所で磨いた成果を公式戦の前哨戦として試してみたい、と考えておられる方も決して少なくないと思います。一方では、初めてテニスをするので仲間に入れて欲しいと思って入会される方もおられるでしょう。連盟が多数の会員の要望に沿って運営されることはもちろん原則ですが、平均値(同好会性)が必ずしもベストとは限らないように思います。本格派のゲームを間近に眺め刺激を受けて学ぶ、上位者の胸を借りて技を磨く、初心者練習に手を貸す、等々、技術的な縦の交流をもっと大切にしたいところです。時には、本格派向きの競技会に重点をおいたり、初心者向きの行事に重点をおいたり趣向も凝らし、本格派から初心者までが共存できるところに意義のあるような組織として育てて欲

しいと願っております。本格派から全く顧みられないようなものでは存在意義にも限界があるのではないのでしょうか。これが創設期に残された第一の課題ではないかと思っております。

第二の問題は、会員相互の連絡友好をはかりテニスを楽しむという組織は、会員にとってはそれなりの存在意義がありますが、最初に書きましたように、会員数の増加、年齢幅の拡大とともに多分性格にも微妙な変化が現われてくることでしょう。同好会性を基盤にここまで発展してきた連盟ですから、同好会性がなくなる筈はありませんが、その質的变化に対処しての連盟運営はこれからの問題です。規模の拡大と共にその社会的存在意義も当然問われることになるでしょう。具体的なことは軽々に書けませんが、そろそろ眼を外にも向け、何か地域社会との公的な相互依存性についても真剣に検討されてよいのではないかと思います。このまま大集団の同好会が度たび公設のコートを占領しておりますと、小同好会には多数の暴力と映っても仕方のないことでしょう。同好会性の他に、社会的貢献に関わるような、会員共通の目的意識を第二の柱として育てることも必要なのではないのでしょうか。

全会員の協力によって目ざましい発展を遂げたことは、お互いに素直に喜びたいと思いますが、さらに意義深い存在になるためにも大切なのはこれからだと思うからです。



ま テニスむかしばなし ま

吉澤幸雄

宮城県壮年テニス連盟創立5周年をお祝い申し上げます。

テニスがブームで、テニス人口の増加もすさまじく、どこの保養所に行ってもテニスコートがあるようになり、また家族で楽しむ人達も多くなった。結構なことでもあります。

会員の皆様には、日本のテニスの発祥などについて知らない方々も多いと思い、すこしばかり紹介します。

テニスが日本に伝来したのは明治3年、英国人が横浜に来て、現在山手公園になっている付近の山林を切り開いてコートを作ったと記録されている。当時

この一帯は租界であったため、日本人はめったに近づくことがなかったから、テニスを身近に見聞した最初の日本人は、おそらくコートキーパーとして雇われた人々であろう。

明治11年から、米国人リーランド教授が東京高師(現筑波大学)の学生にテニスを教えた。リーランドに手ほどきを受けた学生達は卒業後、全国に散っていった。これがテニス普及の夜明けである。しかし、ラケットもボールも輸入品で高価、庶民には手が届かなかった。そこで考案されたのが日本独特の軟式テニスであり、明治11年に創案されたといわれるから、この年が日本流テニスの元年といつてよいかも知れない。

テニスの起源は、14世紀のフランスの宮廷の遊びとしておこったという説が有力である。これがスポーツ好きの英国に渡り、現在見るようなテニスになったといわれる。貴族が愛好したスポーツであるから、マナーにも服装にもなかなかうるさかった。1887年、第1回ウインブルドン大会の時には、選手も観客も服装まで規定されたそうである。男子選手にはカラー付の白のワイシャツに白セルの長ズボン、男子観客はシルクハットにフロックコートまたはモーニングを、婦人は選手でも裾をひくようなロングドレスにボンネットをつけなければならなかった。この英国流の伝統は、日本にもひきつがれた。大正15年10月新宿御苑で台覧試合が挙行された。欧米の国際試合で輝かしい成績を得て帰朝した熊谷一弥、清水善造選手らを中心に日本の一流選手が対戦した。その時は観客はシルクハットにフロックコートまたは山高帽にモーニングという規定であった。

私は、小学校6年生のときから軟式テニスを始め、旧制秋田中学時代は軟式をやりましたが、大正15年4月旧制山形高校に入学したときから硬式テニスを始め、すでに65年になり、思い出をたぐりだすと、感慨を禁じ得ない年齢になりました。私は82歳になるが、比較的元気で丸太沢テニスクラブのコートで若い人達に迷惑をかけながらテニスを楽しんでおります。年をとってもなお楽しめるスポーツをやったことを喜んでおります。

会員の皆様も、健康に十分に注意して高齢になってもテニスを楽しめるように、心から願っております。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

㊦ 創立5周年記念大会を顧みて ㊧

副委員長 瀬野尾 秩

当連盟創立5周年記念事業の一つとして欠かすことの出来ない本大会は、10月10日の体育の日に、青葉山公園庭球場で開催されました。本大会の日程、試合方法、賞品等については、運営委員会、記念事業実行委員会で早くから論議を重ね、数度の実行委員会で漸く詳細の決定に至りました。

当日は秋晴れの好天に恵まれた絶好のテニス日和でした。皆さんには朝早くからお集まり頂き、まず、伊藤副委員長の開会の辞、村上委員長の創立5周年大会開催に至るご挨拶があり、続いて、瀬野尾副委員長および高橋幹事より競技方法についての説明を行い、午前9時から競技を開始しました。

予め、会員にご通知した通り、当連盟としては初めての団体戦で、勝ちゲームの取得率により順位を決める方法としたため、チーム力をバランスさせなければならないということから、参加者を6チームに分けるにあたり、実行委員が各チームの監督となり、申込者83名の各組配分に知恵をしぼり、プロ野球のドラフト会議さながらの選手選考を行った結果、チーム力は概ね平均されたようにおもわれます。

体育の日に相応しい好天とノーアドバンテージルールの採用により、試合は極めて順調に進行し、各チームとも、たとえ試合に負けても1ゲームでも取得することがチーム全体の最終成績につながることを考え、極めて熱の入った試合が展開し、応援にも熱がはいった。女性実行委員の発案で、チームごとに色分けした鉢巻きをしめて気を引き締めるほか、自分のチームが直ぐに解るようにしたのは極めて良いアイデアでした。

チーム名簿および試合の結果はつぎの表の通りでした。

D組の優勝となり、D組の全員に優勝記念トロフィーが1つつ渡され、続いて各チームに成績順に賞品が授与された。この賞品は実行委員会により一工夫がなされており、中身は異なるが表向きは全く同じ6個のダンボール箱を成績順に撰択する権利を与えるものであり、開けてみなければ何が入っているかは解らないというものであった。各チームとも賞品獲得にジャンケンをし、童心に帰って、一喜一憂する姿は実に微笑ましく、この時しみじみと5周年記

念大会の成功を感じられた気がしました。

本大会におたり、実行委員会に参画していただいた会員の方々、特に、賞品の購入、取り揃え、配分等ご協力下さいました女性会員の方々に厚くお礼を申し上げます。

試合成績

	A	B	C	D	E	F	計	勝率	順位
A		19/51	26/46	16/45	20/48	23/52	104/242	0.430	6
B	32/51		29/57	17/46	25/55	22/55	125/257	0.486	4
C	20/46	21/50		20/50	24/44	22/51	105/241	0.436	5
D	29/45	29/46	30/50		18/43	26/49	132/233	0.567	1
E	28/48	30/55	20/44	25/43		30/50	133/240	0.554	2
F	29/52	33/55	29/51	23/49	20/50		134/257	0.521	3

チーム名簿

A	田中 茂子 石亀 聡美 渡辺不二男	首藤 紀子 伊勢 重男 鈴木謙一郎	米本きみよ 川上 秀之 菅野 義治	荒川 貞子 高橋 龍夫 村上和夫	千葉 法子 三谷 英夫
B	菅野志津子 庄山恵美子 伊藤 秀雄	鮎持 啓子 福山 昌雄 水谷 政雄	三谷 鳩子 酒井 秀章 浅野 正次	菊田 幹子 小田島政勝 伊藤 一利	奥井紀美子 高橋 恒男
C	森 施子 伊藤 秀子 加藤 文二	井沢 三幸 室賀 創 多久 亮夫	平井 郁子 小関 精吉 山田 利一	鈴木うた子 高橋 昌明 小野 泰祐	高橋 明子 山内 宏
D	和田美代子 梅崎千枝子 竹内 謙一	玉山 梅子 武田 清雄 千葉 鴻二	伊藤 久子 平井 正光 新藤 英雄	大賀 安子 中村 克宏 瀬野尾 秩	加藤 悦子 松山 真水
E	渋谷 陽子 村上 美 鮎持 勝南	小田島美代子 佐々木満博 高橋 重郎	竹内 道子 外山 旭 大賀 延行	櫻井ノリエ 星 猛夫	三浦美知子 田中 稔
F	酒井 俊子 飯田千加子 工藤 和夫	坂爪 美也 久保 寿一 三浦 翼	根岸 幹子 上山 弘 矢野南巳男	今野 ミチ 下山 修二 丸山 潔	布留川三枝子 倉橋 俊之

テニス一口メモ

「ラケットを新しく買替えたのにどうも調子が悪い。」「冬場になったらボールの伸びが悪くなったような気がする。」等々悩んでおられる方はいませんか。ラケットについて、つい見落としがちなのは、ストリングス（ガット）のテンションです。ラケットを購入する時、厚ラケ、中厚、でかラケ等ラケットの種類やメーカーについては注意をはらっても、ストリングスの種類やテンション（張り具合）については、比較的、「貴方任せ」の場合が多いようです。特に、テンションはラケットの種類以上に大切な要素です。「力をいれているのにボールが思う程飛んで行かない。」「ボールが飛び過ぎてコントロールが出来ない。」などはまさしくテンションの過不足が原因していることが多いのです。購入してから数年も同じストリングス（切れないという理由で）を使っていると自分のテニスの上達を自分で阻んでいることとなります。新しい年には、新しいストリングスを、貴方に合ったテンションで張って、巧くなるう!!!!!!

㊦創立5周年記念パーティ開催㊧

記念パーティ幹事 菅野 義治

壮年テニス連盟はめでたく創立5周年を迎えることができ、記念パーティが12月1日、伯養軒大ホールで盛大に開催されました。

前日は11月では気象観測史上初めてという台風に見舞われたが、会員皆様からの精進の賜物で、台風一過晴天に恵まれ、絶好の日和となりました。出席者も過去最高の84名となり、女性会員も4割弱の参加があり、記念パーティを盛り上げて頂きました。

今回は、ご案内の際に会員でないご同伴のご参加を呼び掛けたところ、数組の参加がありました。さすがに壮年の面々、申込が84名あり、出席者84名と100%の参加率に幹事一同感謝申し上げます。

パーティは伊藤副委員長の司会で幕を開け、最初に村上委員長の挨拶と1年間の経過説明があり、続いて、初代委員長の神吉先生から祝詞をいただき、乾杯の音頭をとっていただきました。記念パーティのお祝いにと、千葉鴻二会員の奥様で藤扇流師範の素祥さまにより目出度く日舞二舞が披露され、パーティに華を添えて頂きました。立食宴会にかぶりつきながら、三大会の優勝者の表彰が始まり、各大会

の優勝者には委員長より記念の革製ネームプレートが手渡されました。

宴会の部は、カラオケで始まり、司会は、対いわきVTC親善試合での実績がある新運営委員の井沢氏の活躍で会も盛り上がり、パーティに相応しく社交ダンスが登場するなどして会員の親睦が図られました。宴会の圧巻は、お待ち兼ねの福引です。担当した女性幹事の努力により豪華な景品が用意され、特に記念にと提供された村上委員長賞(数万円のグアムウェア)を目玉賞品とした全員空籤なしの抽選に一喜一憂の一時でした。ご協力頂きました方々に厚くお礼をもうしあげます。時のたつのも早く、伯養軒様のご好意による時間も終了まじかになり、中締めを音頭を上山先生のご発声で、本記念パーティを成功裡に納める事ができました。

親睦パーティも回を重ねるごとに、参加者も増え、第1回に比べると特に女性会員の参加が多くなり、コートの上では図れない親睦に繋がることと思います。最後に宮城県壮年テニス連盟の100回以上の記念日を重ねることを祈念するとともに会員皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



宮城県壮年テニス連盟会員 年齢別会員構成

宮城県壮年テニス連盟の会員数は平成2年11月31日現在で男子190名、女子121名であり、総数311名となっております。昭和61年4月に会員総数105名で発足してから、昭和62年で192名、昭和63年で225名、平成元年で252名となり現在の会員数へと推移し、今後ますます増加の傾向にあります。

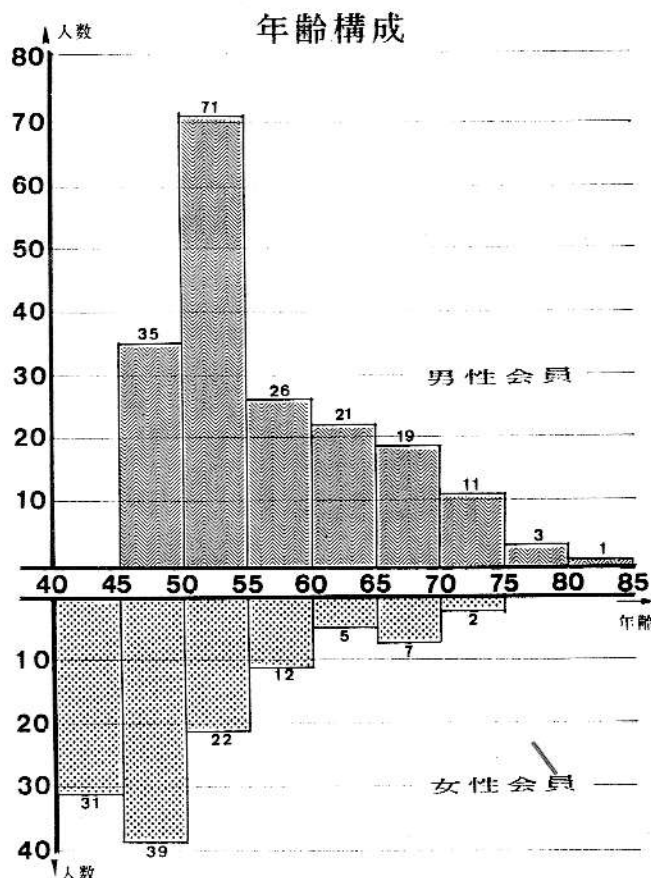
連盟会員のなかで女子会員の占める割合は、発足時には20%に満たなかったものが現在39%にも達し、女子会員数の増加は著しく、近い将来、男女の比率が逆転することも予測されます。

図は5歳間隔で会員構成を示したものです。男子では50歳～54歳が37%を占め、次いで45歳～49歳が18%を占めています。55歳以上の会員数が極端に少なくなり、特に、55歳～59歳、60歳～64歳の会員の占める割合は、夫々、14%、11%と少なく、65歳～64歳の10%にほぼ匹敵する数値を示しています。戦後の諸物資不足等の世相の影響が如実に現われているとも考えられます。

女子では45歳～49歳が33%と最も大きい数値を示していますが、概ね、年齢順の比率を示しているようです。

男女共に、最若年層の会員数が最大数を示さない理由としては、この年齢層のテニス人口が少ないということではなく、「楽しみのテニス」よりも「競技テニス」への志向が強い、「壮年」という言葉に若干の抵抗を感じる等の理由があるようです。

ともあれ、310余名の会員のなかに70歳以上の会員を18名も擁していることは当連盟の最も誇りとするところと思われます。中でも、最長老の吉沢幸雄会員(82歳)を筆頭に岩月賢一会員(77歳)、花淵武雄会員(76歳)、千葉実会員(75歳)のかたがたはただ単にお元気でプレーをなさるばかりではなく、各種の大会に出場され、優秀な成績をおさめておられるご様子は会員諸氏の将来の良きお手本になっておられるものと思われます。



第3回 ねんりんピッチびわこ大会

および 岩手大会に参加して 今野 ミチ

9月29日から10月2日までの4日間滋賀県で開催されましたねんりんピッチびわこ大会とその1週間まえにおこなわれた岩手大会に仙台市代表テニス選手団の一員として参加させて頂きました。

私のような者が代表になれたのは60歳以上の女子のテニス人口が少ない為本当にラッキーという他ありません。

岩手大会は来年のねんりんピッチの大会の為参加は東北6県と仙台市の代表のみです。テニス競技は9

月23日安比高原テニスコートで行われ、仙台市および宮城県は3位となり銅メダルを頂きました。素晴らしい環境の中でこの様な大会に初めて参加し、勉強したり、反省したりの楽しい秋の一日でした。

一休みする間も無く本番のびわこ大会です。9月29日、大津市皇子山陸上競技場に於いての総合開会式には、仙台選手団も手に手に七夕の飾りを持って入場行進を致しました。30日からは種目別に分れ、テニスは大石スポーツセンターでの競技の予定でしたが、台風20号の影響で朝から雨風激しく、急遽、大石小学校体育館での開会式のみで一日が空しく過ぎてしまいました。

翌10月1日は雨も上がり新装なったテニスコートで競技が

開始されました。日程の都合上予定のリーグ戦ではなく、トーナメント方式で仙台市は石川県と対戦することになりました。65歳以上男子 5-7, 女子も 5-7で負け、60歳以上男子のみ頑張ったものの1勝2敗の成績で2回戦には進めませんでした。その後、千葉県との交流試合には3勝し、もう一回位と希望しましたのに時間がなくたいへん心残りでした。2日はもう帰仙の日です。せめて準々決勝の女子の

試合だけでもと時間の許す限り観戦し、色々と得る所がありました。

今やっとテニスの試合が解りかけた様な気がいたします。テニスをしていて本当によかった。これからも体に気を付けてよいプレーが出来るように励みたいという気持ちで一杯です。この様な貴重な体験を支えて下さいました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

☆ 新入会員の自己紹介 ☆

「いわきVTCでの思い出など」 白根 早苗
私かテニスを始めようとしたのは、今から20年程前、結婚してすぐ、今は勝山ボート場になっている伊沢コートです。当時は名選手?だった主人に、白い短いコート、その他揃えてもらって板打ちからと-----、でも、その日一日きりでおしまい、翌年には子供が生まれることになってしまいました。

主人の転勤にともない、いろいろの土地を転々となりました。千葉の市川に住んだ時、近くにテニススクールがオープンするので入会し、ずっと段ボール箱の隅にあったコートを出してみました、入りません。十年の歳月は恐ろしい! 新しいコートと、どうせ長続きしないだろうと、安いウッドのラケットを買ってもらいました。週一回のレッスンはそれなりに楽しく、待ち遠しく思いました。

その後、都内に引越し、小石川ボートテニスに入り、そこでも週一回のお楽しみテニスでしたが、それなりに満足していました。東京からいわき市に転勤、半年位は、近郊の名所旧跡を見て歩き、それに飽きると、主人と二人で市営コートに行ってみました。でも、仲間がいないことにはどうにもなりません。そこで、市のテニス教室に申込み、沢山の方々とお付き合いが始まり、主人共々いわき市のバテッククラブに入会しました。晴れの日も勿論、少々悪天候をものともせず、ポットを持ってのコート通い、平は市営コートの年間使用券一枚で、一日中いても、毎日通ってもアリガトです。試合も毎週のようにあって、いろいろ挑戦しました。特に、ミックスは喧嘩の種、ネットにピタッとついていて、そこに来たボールだけ打つように言われ、コートに二人ではいっていても、主人のシングルスの試合です。そのうち、私も少しはゲームに参加しようと、決まり

もしないのに手を出しては叱られ、自分が取れそうもない時だけ、急に「頼む」と主人が言うから、ムとくることも多く、テニスとは、自分とも、味方とも、相手とも戦いであると思うこともありました。結果の良し悪しだけにこだわらず、夢中になってボールを追い、打ち返し、汗を流す、その後のボールの美味しいこと、こんな幸せで良いのかしらと思える毎日でした。

いわきの大バテックの方々へのテニスは、省エネテニス、ご自分はあまり動かず、私達を振り回し、真っ赤な顔でハハハやっているのを涼しい顔で笑っている。「ほら、ワッ、そこに行くぞ」とからかわれながら、暖かく育てて下さいました。ますますテニスにのめり込み、少しは上達したなど思える時に、また転勤。今度は仙台、宿命とはいえ、双六で言えば、振り出しへ戻りです。高校生の息子を下宿に残しての転勤、子離れが出来ず、月に一度は洗濯にラケット持参で通いました。

仙台でテニスを始める気になるまで、一年半かかりました。この度、この会に主人共々入会させていただきます。どうぞよろしく、ご指導下さいませ。

§ 事務局からのお願い §

今年度の会費未納の会員の方が若干名いらっしゃいます。郵便振替の用紙をお送りしますので納入されるようお願い申し上げます。なお、納入済みの方で振替用紙が送付された場合には、事務上の手違いと思われるのでご一報ください。二年連続して会費未納者は退会扱いにさせていただきます。

アメリカの雑誌社から出版されている月刊誌 "tennis" のある号に、元アメリカ杯監督アーサー・アッシュが次のような記事を書いています。「あなた方に、よく見てそして真似をしてほしい4つのタイプのフォアハンド・ショットがあります。イン・レトル、ボリス・ベッカー、ジュリアン・グアラソそしてクリス・エド・ロイドのショットです。レトルとベッカーの二人はヒンケスタンのグリップでトップスピンのボールを強打しており、グアラソは対照的にコンチネンタル・グリップで非常に良いタイミングでボールを強打しています。エド・ロイドは完全なイスタンのグリップです。掌がラケット面に一致しており、早くラケットを引いてボールを待ち、ボールをよく見ながらスミスにそしてシッパルにラケットを振っています。彼女のスイングには全く無駄が無いように思われます。もし、私が初心者をお教える立場にたったなら、生徒達には初めはエド・ロイドのようなイスタンのグリップでボールを打つことを教え、だんだんとヒンケスタンのグリップに変えるように指導します。」

この記事にも見られるように、世界のトップ・レベルにある選手のラケットの持ち方、すなわち、グリップはプレーヤーの個性や得意なショットに合うグリップが採用され、特別にこのグリップでなくてはならないという鉄則はないようです。

テニスを始めるとき、テニススクールのコーチや先輩から、「ラケットはこのようにして握ってボールを打つんだよ」と指導された方々も多いことでしょう。あるいは、軟式庭球から転向された方は、軟式のグリップのままてボールを打っておられる方も見受けられます。テニスの教科書の多くには、グリップの種類は① 厚い握りのヒンケスタンのグリップ(軟式庭球の握り) ② 薄い握りのイングリッシュ・グリップ ③ 中間の握りのイスタンのグリップの3種類が紹介されており、皆さんもこれらのグリップのうちのどれかを用いてボールを打っておられる方が多いことと思われる。

しかし、グリップは教えられた通りにして、あるいはトップ・プレーヤーの真似をして打っているのに、いま一つしっくりしたボールや自分の思惑通りのボールが打てていないと感じている方が多いのではないのでしょうか。そして、その原因を「自分ように歳をとってからのテニスは上達を望むのは無理だよ。」と歳のせい

にする悲観的諦めや、「テニスをする時間がもう少しあれば自分だってもっと上手になるんだが。」とごまかしてしまう楽観的諦めでテニスをする楽しさを自から半減してしまっている会員のかたがたはいらっしゃいませんか。

この種の悩みを持っていらっしゃる方は、グリップに関して次のように考えてみては如何がですか。

「教えられた通りのグリップでボールを打つ練習をするのではなくて、自分の打ちたいと思うボールの種類や球筋に合ったグリップに直してボールを打ってみる。」すなわち、順回転のスピンのかかったボールを打ちたいければ、厚めのグリップで、逆に逆回転のスライスボールを打ちたいければ薄いグリップにしてボールを打つのです。薄いグリップで順回転のスピンボールを打ったり、厚いグリップでスライスボールを打つためには手首をこねたり、無理に肘を曲げたりしなければならず、これがミス・ショットにつながる原因になるばかりでなく、ミス・ボール等の原因にもなります。

ただし、厚いグリップとはヒンケスタンのグリップであり、薄いグリップとはイングリッシュ・グリップである必要はありません。プレーをする人の体力や手首の構造等には夫々個性や違いがあるように、厚いグリップ、薄いグリップにも人夫々の違いがあつて当然です。また、同じ厚さ、薄さでも人指し指から小指までを詰めて持つハンマー・グリップと人指し指を伸ばし指先までにして握るグリップ等々人夫々に千差万別のグリップがあつて当然でしょう。肝心なことは、どの型のグリップが自分の意図とするボールを打つのに最も適しているかを見定めることなのです。

当然のことながら、フォアハンドとバックハンドのグリップは違ってしかるべきです。バックハンド・ショットを苦手とする人の大部分はフォアハンド・グリップのままてバックハンド・ショットをしていることに原因があります。

サーブ・イズやスマッシュがしっかりと肩を回して打てない人はグリップが厚め過ぎるのです。ロー・ボレーを苦手とする人もまたしかりです。これらは数例にすぎませんが、この様に、自分が意図とするショットが打てない原因が「適さないグリップ」にあることも多いのです。

さあ、今直ぐに、ラケットを持ち出してグリップを変えて握ってみてください。自分の意図とするボールが打てる様な気がしてきませんか。

最後にもう一つお願いがあります。グリップを打球

の都度変えるためにはラケットを握り変えることになり
ますが、この作業はラケットのグリップ(銀杏)の部分に添え
た左手でラケットを回転させることで行う習慣を付けて
下さい。右手はラケットを握るだけです。上級者の左手
は何時もラケットのグリップにあることに注目して下さい
左手も右手同様にグリップに関して大事な働きを常
時しているのです。

これで貴方の明日からのテニスには数ワタのレベルアップ
が期待できます。明日のテニスが待ち遠しいですね。



対女子連定期戦

辛くも神吉杯奪還なる

今年度の対女子連定期戦は11月11日予定通り市営
青葉山庭球場で挙行されました。夜来の時雨が明け
方になっても止まず、お役の人も出場選手もやきも
きした気持ちで会場に足を運ばれたようです。

コートの大半が軟弱で使用不可能の状態でありまし
たが、早目に集まられた選手の皆さんのご協力によ
り、コートに砂を撒き、ローラーをかけてかろうじ
て3面のコートが使える状態にこぎつけました。

10時より開会式を行い、村上委員長の挨拶に引き続
き、昨年の優勝者、女子連より優勝杯が返還されま
した。今年度は、勝者には優勝杯の他に選手全員に
「柿3個と餠餅とがんづき1個づつ」の副賞、敗者には
「柿2個と餠餅とがんづき1個づつ」の残念賞が付
くというので、「柿1個」の差をめぐって、試合開
始前より、舌戦ひときわ高く、青葉の山にこだまし
たようです。

試合は各チームを6組に分け、各組総当りの28試
合(6ゲーム先取)で行われました。勝敗は一進一退で経
過し、掲示板に出る1試合ごとの結果に歓声があが
りました。最終の4チームがコートで熱戦を繰り広
げるまで決着はつかず、当連盟やや優勢ながら、逆
転の可能性十分の膠着状態がつづきました。委員長
の叱咤激励の甲斐があったのでしょうか、接戦ながら
最終4試合を全部勝ち取り、16対12で辛うじて当連
盟の優勝となり、神吉杯を奪還することができまし
た。

試合終了後直ちに閉会式を行い、神吉杯は当連盟主
将岩月賢一選手の腕にしっかりと抱かれました。優
勝杯授与の際、女子連より「勇者は帰りぬ」のハミ

ングが期せずしておこり、これに感激した主将の計
らいで「柿3個」は女子連の手中となるに至りまし
た。それにつけても、女子連の「柿1個」の差に対
する執念の恐ろしさよ。

出場された選手の皆さんご苦労様でした。来年も
頑張って神吉杯を死守いたしましょう。



対いわきVTC親善試合

盛況裡に終わる

今年度は当連盟がいわきVTCを迎える年であり、
一昨年の「雨でテニスなし」の苦い経験を活かして、
少々の降雨でもテニスのできる私コートで、しかも、宿
泊設備のある場所をと運営委員会で検討をした結果、
少し、コート料金は高くとも、気持ち良くプレーできる
条件を備えたグリップ7岩沼が会場に選ばれました。
期日は11月17日(土)、18日(日)と若干寒さが懸念さ
れましたが、両日も微風の絶好のテニス日和にめぐ
まれました。参加者は「日帰り」も含めて、当連盟
側40名、いわき側12名、合計52名であり、用意した
コート(17日の練習会4面、18日6面)も足りないくらい
の熱気が溢れていました。

17日の午後の練習会には、殆ど全員が参加し、明日
の「本番」が心配される程、真剣な「交換練習試合」
を繰り広げ、「ナイターでもゲームをしたいなあ」という
声も聞かれました。幸か不幸か、11月はナイター設備が
使えず、4時過ぎに全員割当てられた部屋に引き上
げ、温泉風のゆったりとしたお風呂で疲れを癒し、
今夕の交歓会と明日の親善試合の英気を養いました。
その成果の一部がまず6時より大広間で開催された
交歓会に如何無く発揮されました。

昨年度は折角いわき市まで遠征しながら、当連盟は
試合前夜の親睦会に於いて、全くいわき側の実力に
対抗出来ず、6-0、6-0のストレート負けを喫ったという
屈辱?(会報8号の和田美代子さんの手記による)をは
らさんばかりに、参加人員の数の多さを武器として、
いわきに襲いかかりました。しかし、さすがに実力
者のいわき、歌に、踊りにと、宮城側の繰り出す強
烈なショットを軽々と打ち返し、逆に鋭いかッター・パンチが
宮城側を悩ませたようです。幸いなことに、会場の
使用時間切れということで、手ひどい返り討ちをあ
びる前に、一次親睦会を閉じることが出来ました。
予め用意されていた幹事の部屋を、二次会の会場と

し、30数名の両サイドの精鋭が打ち揃い、舌戦に挑みました。時間の経過は速く、深夜近くになり、他の宿泊客の迷惑になるとの配慮から、止むを得ず、お開きとあいなりました。

いわきVTCの阿部会長談によれば「今夜の対戦は、タイブレークまでいったようですね」とのこと、どちらが勝ったかまでは云われなかった所がいかにもいわきVTCらしいテニックを感じさせられます。

絶好のテニス日和で行われた親善試合も両サイドの好プレーで互角の勝負であったようです。午後3時過ぎに来

年の再会を約して、今年度の親善試合を無事に終了いたしました。

後日、いわきVTCの安部順吉会長より「会場もよし、歓迎もよし、試合も亦良しの三拍子揃った大会でした。多人数の方々が参加して下さり、本当に楽しい会でした。参加者の方々および手落ち無く心配りをしていただいた幹事さんにくれぐれもよろしく。」という感謝のお便りが届きましたことを申し述べておきます。

平成2年度事業報告

平成2年度に開催された宮城県壮年テニス連盟の行事一覧です。大会名、参加人数および会場名が記載されております。来年度の行事参加の参考資料にいただければ幸いです。

月日	事業名	参加人数	会場
1/15	室内ダブルス大会 I	37	キリンSC
2/18	室内ダブルス大会 II	29	キリンSC
4/15	月例会	54	泉総合運動場
4/19	WEEKDAY交歓会	37	宮城野原庭球場
5/17	WEEKDAY交歓会	42	泉総合運動場
5/27	年齢別ダブルス大会	86	泉総合運動場
6/8	WEEKDAY交歓会	31	宮城野原庭球場
6/19	WEEKDAY交歓会	38	宮城野原庭球場
7/3	WEEKDAY交歓会	46	宮城野原庭球場
7/19	WEEKDAY交歓会	41	宮城野原庭球場
8/26	混合ダブルス大会	56	青葉山庭球場
8/28	WEEKDAY交歓会	43	宮城野原庭球場
9/4	WEEKDAY交歓会	56	宮城野原庭球場
9/24	月例会	47	青葉山庭球場
9/30	技量別ダブルス大会	72	青葉山庭球場
10/2	WEEKDAY交歓会	35	宮城野原庭球場
10/10	連盟創立5周年記念大会	82	青葉山庭球場
10/18	WEEKDAY交歓会	26	青葉山庭球場
10/21	月例会	15	青葉山庭球場
11/3	月例会	54	泉総合運動場
11/11	対日本女子テニス連盟宮城県支部定期戦	56	青葉山庭球場
11/17	対いわきVTC親善試合	52	グリーンピア岩沼
11/18			
12/1	連盟創立5周年記念パーティ	84	伯養軒会館

以上の他、2回の委員総会および9回の運営委員会を開催

新入・退会員紹介

会報No.9以後の会員の異動をお知らせいたします。

月	氏名
4	大和田国子
5	石井好子
5	小泉美智子
5	大寺俊巳
	大寺太貴枝
5	神尾好是
5	三田村由子
5	鈴木捷彦
5	加藤長五郎
5	今泉優子
5	後藤真一
	玉子
5	中村孝史
	中村経子
5	八幡武始
	八幡順子
5	鎌田茂一
	鎌田勢子
5	松村理治
	松村久
5	鴫田文三郎
6	大坂俊明
6	三上時子
6	中村利子
6	有賀吟生
	有賀昌子
6	川原田真紀
6	阿部 徹
	阿部芳子
6	鈴木議一郎
	鈴木うた子
	荒川全介
6	岡田克巳
6	神松伊三郎
6	中島美樹子
6	新井功喜
7	鈴木東行
7	星 維明
7	北野寿一
7	庄山恵美子
8	関 徹
8	本野日出子
8	福田承生
	福田ミネ子
9	柴田賢蔵
10	飯田千加子
10	桜井川江
10	粕谷佳士乃
10	白根晴男
	白根早苗
10	三浦翼
	三浦美知子
11	玉川勝洋
	玉川清子
11	梅崎千枝子
11	玉山 豊
11	嶺岸光哉
11	新海紀哉
	真理子
12	福島誠

平成2年度各種大会記録

平成2年度に開催された各種テニス大会の記録の一覧表です。会員参加の部に限って結果が掲載されております。会員諸氏の活躍の様子を記録として残す意味で毎年後半の会報に掲載予定でおります。運営委員会および事務局では極力情報の収集に努めておりますが、収集洩れのケースも多々あることが予想されます。会員諸氏におかれましては、各種のテニス大会に参加され、何等かの成果を上げられた場合あるいは何等かの情報を入手されまし場合には(公式戦とは限りません)、ご面倒でも事務局宛てご一報下さるようお願いいたします。

(会員参加の部のみ掲載)

大会名称	主催、期日、会場	種目	順位	氏名
第5回年齢別ダブルス大会	宮城県壮年テニス連盟 6/11 泉総合運動場	女子40歳	優勝	和田美代子 布留川三枝子
		女子45歳	優勝	渋谷陽子 松坂真砂子
		女子50歳	優勝	井沢三幸 菅野志津子
		女子60歳	優勝	菊田絢子 今野ミチ
		男子45歳	優勝	中島佑 小野寺嘉郎
		男子50歳	優勝	近晴雄 松山真水
		男子60歳	優勝	村上和夫 小関精吉
		男子65歳	優勝	久保寿一 室賀創
平成2年度混合ダブルス大会	宮城県壮年テニス連盟 8/26 青葉山公園庭球場	Aクラス	優勝	松村理治 松村久
		Bクラス	優勝	小野寺嘉郎 安藤伸子
		Cクラス	優勝	福田承生 福田ミネ子
平成2年度技量別ダブルス大会	宮城県壮年テニス連盟 9/30 青葉山公園庭球場	Aクラス	優勝	村上実 中島佑
		Cクラス	優勝	五島武雄 吉沢幸雄
宮城県インドア選手権大会	宮城県テニス協会 2/20,21,22 市体育館	男子45歳	優勝	高橋龍夫(佐藤洸)
東海毎日テニス選手権大会	東海テニス協会 4/16~4/20 名城コート	男子50歳S	優勝	高橋龍夫
		男子50歳S	優勝	高橋龍夫
宮城県春期テニス大会	宮城県テニス協会 5/19~ 宮城野原庭球場	男子45歳D	優勝	高橋龍夫(川緑衛)
			準優勝	安田勇(加藤精一)
		男子45歳S	準優勝	高橋龍夫
		男子55歳D	優勝	上山弘 川上秀之
			準優勝	福島誠 神松伊三郎
		女子40歳D	優勝	酒井倭子 渋谷陽子
	準優勝	武田孝子(川緑美智子)		
桑名杯	日本女子テニス連盟宮城支部 5/24 宮城野原庭球場	MMC杯	準優勝	井沢三幸 和田美代子
宮城県体育大会	宮城県テニス協会 6/23・24 宮城野原庭球場	男子45歳S	準優勝	中村克宏
国体テニス競技宮城県予選会	宮城県テニス協会 7/7~9 宮城野原庭球場	成年II部S	準優勝	高橋龍夫
		成年II部D	優勝	高橋龍夫(川緑衛)
			準優勝	高橋正義(本多徹)
東北アンテナテニス選手権	東北テニス協会 8/8~12 安比高原テニスクラブ	男子50歳S	優勝	高橋龍夫
		男子55歳D	優勝	山内宏 高橋良昌
市民トーナメント	泉テニス協会 9/16 泉総合運動場		優勝	近晴雄 松山真水
			準優勝	五島武雄 中島佑
宮城県テニス選手権大会	宮城県テニス協会 9/22~24 宮城野原庭球場	男子55歳D	優勝	久保寿一 室賀創
			準優勝	福島誠 神松伊三郎
		男子45歳S	準優勝	高橋龍夫
		男子45歳D	優勝	高橋龍夫(川緑衛)
市民大会	仙台市テニス協会	一般男子	準優勝	大賀延行 佐々木武雄
		壮年S	準優勝	井沢秀雄
ダンロップトーナメント 東北決勝大会	東北テニス協会 10/27 28 泉PTTC	壮年	優勝	高橋龍夫(川緑衛)

＝第9回委員総会＝

第9回委員総会は12月1日16:30より伯養軒会館会議室で開催されましたので報告いたします。

◆出席者(含委任状*印)

(クラブ等グループ代表委員)* 飯野雅 井沢秀雄
石亀希男*岡崎幸子*北野妙子 酒井秀章
渋谷陽子*高橋哲太郎 玉置康雄 安田勇
(運営委員 幹事) 村上和夫委員長 伊藤一利
*小野泰祐 菅野義治 酒井俊子 首藤紀子
庄司則克 瀬野尾秩*松山真水*矢田慶治
大賀延行 高橋龍夫 山内宏

◆報告及び協議事項

① 村上委員長から「本年度の事業計画は記念行事を含め参加者の増加と相俟って予定通り何れも成功裡に実施することが出来た。当連盟も会員数300を越す規模となったが今後は単なる県内活動に留まらず、機に応じ東北各県の同好者との交流をも含め、ますますの発展を期したい。」旨の抱負が述べられた。

② 諸報告

i 庶務担当委員から、12月1日現在の会員総数が、男子190名、女子121名月例会 合計311名となった旨報告があった。

ii 会計担当委員から、資料に基づき12月1日現在の収支状況につき報告があり、事務経費は概ね予算範囲以内で執行されており、競技関係経費は参加者数の増加により剰余が出る見込でありさらに、年会費の納入状況も順調であること等につき報告があった。

iii 競技担当委員から、資料(頁「平成2年度事業報告」参照)に基づき当年度中の競技会等の実施報告が行われた。

iv 広報担当委員から「4月30日発行の会報9号に引き続き、連盟創立5周年記念特集号として年内に第10号が発行される予定である」旨の報告が行われた。

③ 協議事項

i 平成3年度の運営委員の選出について協議が行われ、規約により今期で退任する伊藤、矢田の両氏を除く他の現運営委員は再任とし、新たに伊沢秀雄、新藤英雄の両氏が選出された。

ii 平成3年度の行事について協議の結果、ほぼ、

平成2年度に準じた行事を実施することとし、3月上旬に行われる各団体との日程調整のうえ、次回委員総会において最終決定することとなった。
iii 平成元年度および2年度の両年度にわたる会費未納者については、従来の例にならない自然退会扱いとすることが了承された。

以上

＝お知らせ＝

★ 平成3年度室内ダブルスを楽しむ会 開催

下記の要領で平成3年度の室内ダブルスを楽しむ会を二回にわたり開催いたします。奮ってご参加下さい。会場はキリンSC(広丁リンドコート)です。

第1回室内ダブルス

期日・時間: 1月15日(成人の日) 9:00~18:00

会費: 2,500円/人

参加人員: 36名

第2回室内ダブルス

期日・時間: 2月11日(建国記念日) 9:00~18:00

会費: 2,500円/人

参加人員: 36名

実施内容: 両回とも概ね技量別に分れてダブルゲームをたのしみます。

参加申込: 必ずハガキで、ペアのいる方は連名で申し込んで下さい。締め切り日は両回ともに1月8日です。申込順とし、第1回目に参加できなかった方は第2回目に参加優先権を持つものとします。両回ともに参加希望の方は同一のハガキで申し込みます。参加出来る方には期日前に事務局よりハガキにて連絡いたします。

編集発行 宮城県壮年テニス連盟運営委員会